

長岡安平

長岡安平（1842-1925）は、大村で生まれ、日本における最初の近代造園家とされている。日本中の公共の公園や庭園の多くは、長岡により造られたか、もしくは長岡の影響を受けたものである。長岡は、設計において、その土地の自然地理を活用し、来訪者が楽しめるよう、花を付ける木を植えた。

長岡は、土木技師として働き始め、1878年に皇居のお堀の造園に携わった。長岡は、その後、東京や、日本各地の公共の公園や庭園を設計するよう要請され、ついには、秋田県の久保田城にある千秋公園、東京の芝公園など、北海道から九州まで41の公園に携わった。1884年、長岡は、東京から約1,000本もの桜の木を持ってきて、新たに建立された大村神社の記念に、玖島城の城内に植えた。